

2025年度 事業報告書

1 事業の成果

2025年度は法人として7年目の事業年度となり、無事に1年間の全活動を終えることができた。前年度に引き続き、さまざまな団体や企業、行政の方からお声がけをいただき、多方面に出向く業務が多くあった。また代表理事を務める川口は、さまざまな組織や協議会の委員として委嘱を受け職務に当たる。これは、当法人の価値や事業・活動の価値が確立されつつあり、多方面に周知・認知していただけてきたことによるものと考えられる。一方で、2024年度に課題視された事項や限界点に対してもアプローチを試みるが、優良な打開策・解決策を見出すことはできず、課題として次年度に引き継ぐこととなった。だが、現在の当法人の強みを活かし、課題へのアプローチの幅を広げ、次年度以降の事業や活動に反映させることを目指し、全国で活躍する団体を訪問し、フィールドの視察や取り組みの事例を学ばせていただくことができた。

【自然楽校事業】

『マリンキッズ』

2024年度から取り組みを開始した本活動は、月に1回、半日活动(3時間)の年間活動としてリニューアルを行い、2024年度末から募集を開始するも申込は5名(最小遂行人数)にとどまり、年間活動が開始となる。半日活动ではあるが、決まったメンバーで1年間を通して海辺で活動をプログラムとして充実し、子どもたちの海に対する意識や対応力、子どもたち同士の関係性など、当法人として目指すプログラムを実施することができた。当法人としては大切にしていきたい活動ではあるが、反響は少なく、昨年度明らかになった課題「送迎の大変さ。送迎の間の待ち時間の使い方の難しさ」に対する根本的な打開・解決には至らなかった。2026年度は、より本質的な対策を講じる必要がある。

『アースキッズ』

海の森をテーマにした毎月1回(年間合計 12回)の『海のもりプログラム』を実施。また、『里のめぐみプログラム』として5月には田植え、8月末には稲刈りを実施。これまで同様、環境教育を目的とし、どなたでも参加していただきやすい体制で実施。『海のもりプログラム』においては、久々生海岸で取り組む活動に対して「ゆうちょエココミュニケーション」さまから活動助成をいただくことができ、また、それ以外の海プログラムに対しては「連合・愛のキャンパ」さまからの活動助成をいただくことができ、活動内で活用させていただくための器材を充実させることができ、活動自体も充実させることができた。今年度は天候にも恵まれ、予定していた全活動を実施することができ、どのプログラムにおいても静岡県内外から多くの方にご参加いただくことができ、賛助会員の増加にもつなげることができた。『里のめぐみ』プログラムにおいても、これまでの活動で得た情報や結果をふまえ、課題に対して明確に対策をとることで、多くの方にご参加いただくことはできたが、やはり、『御前崎』という地域に対するニーズが明確であることから、集客面では苦戦した。次年度は更なる対策を講じ、充実も図っていく必要がある。また、海と里をつなぐ活動として12月に「塩づくり&竹飯ごう」の活動を企画・募集を行うが、天候不良に伴い中止となってしまった。多くの方にお申込みいただいていた活動ということも受け、当法人の強みであると考え、次年度の事業計画に反映させたい。

『オープンプログラム』

2023年度・2024年度と申し込みが減少していたが、物価が高騰し続ける影響があっただけか、10件ほどのお申し込みをいただき、内8件は開催することができた(開催できなかった2件は、天候不良に伴い中止。)。当法人としては良い状況となったが、御前崎市に対する観光的なニーズの衰退は明らかである。次年度においても、ニーズの把握に取り組んでいく必要がある。

2025年度も実験的な取り組みを行うことで、当法人に対してだけでなく、御前崎という地域に求められているニーズを探ることができた。特に、当法人に求められていることが明確になってきていることから、自然体験活動や環境教育活動を通して、自然を楽しみ、身近に感じていただくことで、海をはじめとする自然や環境だけでなく、自然・環境・社会のつながり、自然共生などについても、興味や関心を育むことができ始めていると感じる。

【未来にのこす事業】

『ハチドリaction.』

『久々生海岸 里海プロジェクト』では、延べ318名の方にご協力いただき、1年度間で41回の保全活動を実施。約11,070ℓ、約1,270kg分の漂着ゴミを回収することができた。昨年度に引き続き、11月に小笠南地区労働福祉協議会の皆様と共に取り組むビーチクリーンを実施。また、12月には静岡県御前崎港事務所および国土交通省中部地方整備局の皆様によるお声がけをいただき、御前崎港 安全協議会の皆様と共に、久々生海岸の一斉清掃を行うことができた。この際、通常処理ができないガラス類や缶類、流木などを撤去していただき、ビン類 約60ℓ、缶類 約90ℓ、大型漂着ゴミ 約4,000ℓ、流木 約28,000ℓ分を撤去していただくことができた。また、県内企業の皆様と取り組む協働的な海岸保全活動も継続的に実施し、5つの県内企業の方が団体賛助会員として登録してくださり、2か月に1回程度、活動にご協力いただいている。今後も継続的に協働活動を行っていきけるよう、関係性強化を図っていききたい。その一方で、昨年度同様、一般市民の環境保全に対する意識の低下が感じられる。アースキッズの活動内でも海岸保全活動に取り組み、協力の呼びかけを行っていく必要がある。久々生海岸の調査・研究的取り組みについては、昨年度同様、東海大学 仁木研究室の皆様にご協力くださる。2025年度においては、鉄鋼スラグを用いた比較実験に取り組んでいただき、成分比による発育の違いを把握することができた。また今年度より、東海アクアノーツの皆様にご協力いただき、全3回(3地点)の土壌成分分析を実施。コアマモが繁茂する地点と通年繁茂が観られない2地点での比較を行うことで、内1地点から、真水の供給の可能性が観られた。また、過去に御前崎市の地下水について調査・研究されていた静岡大学附属中学の先生とつながりをつくることができ、久々生海岸の後背地に当たる丘に湧き水が染み出る水源となる谷があることを確認。久々生海岸近辺に長く住まわれている地域の方からは、丘の斜面に湧水場があることも教えていただき、現地を確認することができた。加えて、湧水の水源と湧水場周辺のお家には、古くから井戸があり、今も水が湧いていることを確認。これまで謎であった、海岸への真水の供給について、大きな進展となった。次年度以降、地下水の調査にも取り組んでいきたい。また昨年度に引き続き、J-ブルークレジットの認証をいただくことができた他、2025年4月から施行した地域生物多様性増進法に基づく「自然共生サイト」として認定をいただくことができた。加えて、これまでの取り組みを評価していただくことができ、気候変動アクション 環境大臣表彰をいただくこともできた。次年度以降も継続的に活動を行い、多くの方に久々生海岸やアマモ場の様子、海の現状を知っていただけるよう活動に取り組んでいきたい。『里山まもり隊』として取り組む竹林整備活動では、アースキッズの活動に合わせて実施。整備の際に切り出した竹は里のめぐみプログラム内で活用を計画するも、天候不良に伴い活動が中止となり竹を活用することができなかつた。切り出すは良いものの、その後の活用については、他の案も検討していく必要がある。また、里山保全活動への意識向上には至っていない現状もふまえ、海だけでなく、里山の保全の大切さについて周知し理解を図っていく必要がある。

『インタープリター養成』

7月にNEALリーダー養成講座およびキャンプインストラクター養成講座を同時開講。両講座とも、県内外から多くの方にお問い合わせ・お申込みをいただいたが、当初予定していたほどの参加者数は集めることができなかった。開催時期や開催方法、開催場所など再検討する必要がある。

『結び』

昨年度同様に市内比木地区の田んぼを借用。田んぼに集まる生きものたちとの共生・共存を目指す池をさらに整備し、農薬を使わない稲作を実施。池には多くの生きものが集まり、田んぼの生きもの観察フィールドとして活用。観察会としては活動を行っていないが、今年度も多くの生きものを観察することができ、当法人が目指す、田んぼの生きものたちと共生・共存する田んぼが定着している。また、同比木地区にある福田沢ふるさと公園の方ともつながりを作ることができ、耕作されていない田んぼなどを活用させていただけるよう調整を図っている。次年度以降、これまでの知見を活かし、プログラム化させ、保全も含む活動の基盤づくりに取り組んでいきたい

【むすびつながる事業】

『協働Program.』

御前崎市教育委員会が主催する「御前崎クエスト」は本年度も事業受託。大きな変更点は無く、9年目の事業を無事に終えることができた。また、御前崎市社会教育課が取り組む市内小学校を対象とした「海洋体験活動」や御前崎市環境課の皆さんと共に取り組む「御前崎 環境出前講座」においても、継続して講師を受託。また、昨年度から携わらせていただいている公益財団法人B&G財団が開催する指導者養成研修内での『自然体験活動による郷土教育』の選任講師を務める。B&G財団様からは「全国で9割以上の開催ができた」とご好評をいただくことができ、1期2年の計画は無事に終了することができた。今年度も多くの方々との協働的に取り組む活動を実施することができたと同時に、自然体験活動の基盤構築のための業務として出向く取り組みが増えた。

『つどいの広場』

法人施設『セミナーハウス』の活用は、マリンキッズやインタープリター養成、日常的なミーティングの場所として活用してきたが、次年度はより活用させていく必要がある。また昨年度に引き続き、みなと総研未来のみなとづくり助成(港湾協力団体活動)から活動助成をいただき、2月に水族館イベント『おまえさまのなかの水族館』を開催。昨年度同様、御前崎市観光物産会館なぶら館の1階展示スペースを会場に、多くの方々にご協力をいただき、3日間限定の水族館を開所。昨年度を超える延べ670名ほどの方が来場してくださり、大きな賑わいを作ることができた。また、貝がらを活用したレジンキーホルダーづくり・割れた貝がらを使った万華鏡づくりのワークショップも実施。ワークショップでも昨年度を超える70名ほどの方が参加してくださった。イベント期間中は、御前崎市における観光的なアンケートも実施。御前崎市の観光について、他地域に住む方からどのように観ているのか・感じているのか、御前崎市の観光に求められるニーズを探ることができ、課題が明らかとなった。アンケートは、ワークショップと関連性を持たせることで、昨年度を大きく超える100件の回答をいただくことができた。ここで見えてきた課題は、自然楽校事業で取り組むマリンキッズの課題にも通じる点が多く、課題をしっかりと把握した上で、対応策を講じる方がいいのか？もしくは、代替案を検討したほうがいいのか？再度検討を行い、2026年度以降に活かしていく必要がある。会員の皆さんとの交流を目的とした『Member's Camp』は、天候不良が重なり、中止となる。次年度以降は開催方法を再考する必要がある。

法人全体として、今年度もさまざまな活動に取り組むことができた。『私たちらしさ・私たちだからこそこの活動や強み・私たちが目指すもの』を多くの方に認知していただくことができ、それらが法人としての事業につながり、評価にもつながった実りある良い1年となった。加えて、活動時に会員募集に関する呼びかけを繰り返し行うことで、賛助会員の増加にもつながり、会員として継続してくださる方も多くいらっしゃる。次年度以降も継続的に取り組み、会員の皆さんと交流を重ねていきたい。しかしその一方で、私たち法人だけではどうしてもできない地域としての課題が明らかとなってしまっていることもふまえ、今後の法人運営における方向性をしっかりと見定めていく必要がある。法人運営面においてもまだまだ安定という状況を構築できていないが、法人運営の方向性を再考することが必要不可欠である。今年度の取り組みに満足することなく、2026年度においても取り組みの継続・強化・発展・見直しを行い、より良い活動を、より多くの方に届けることができるよう、より多くの方々と連携・協働を図り、より良いプログラム・活動づくりを行っていきたい。そして、法人事業に直接的に関わってくださる方を増やしていきたい。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
自然楽校事業	ネイチャーズ マリンキッズ	4～翌年3月 月1回(全12回)	セミナーハウス 久々生海岸他	2人	一般参加者 合計5名	370
	アースキッズ	4～翌年3月 全14回	久々生海岸 他 御前崎市内	5人	一般参加者 合計234名	780
	オープンプログラム シーカヤック体験等	7、8、9月 全4回	久々生海岸	2人	一般参加者 合計12名	120
未来にのこす 事業	ハチドリaction. 里海プロジェクト	4月～翌年3月末 全41回	久々生海岸	5人	保全協力者 合計318名	420
	ハチドリaction. 里山まもり隊	11月～翌年1月 全3回	御前崎市内の 竹林	2人	整備協力者 合計5名	80
	結び 休耕田を活用した稲作	4月～翌年2月	御前崎市内の 田んぼ	3人	一般参加者 合計16名	135
	インタープリター養成	7月 全1回	セミナーハウス 久々生海岸他	2人	一般参加者 4名	200
むすびつながる 事業	協働Program 御前崎クエスト ファミリープログラム	偶数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	2人	市内在住の家族 3家族 7名登録	526
	協働Program 御前崎クエスト キッズプログラム	5, 7, 9, 10, 12, 翌 年2月 全6回	御前崎市内 各所	3人	市内児童 15名登録	649
	協働Program 御前崎クエスト ジュニアプログラム	毎月1回 全12回	御前崎市内 各所	5人	市内児童 27名登録	2, 212
	協働Program 御前崎クエスト グローバルプログラム	毎月3～4回 全36回	御前崎市内 各所	2人	市内児童 12名登録	1, 530
	協働Program 御前崎クエスト ユースプログラム	奇数月に1回 全6回	御前崎市内 各所	2人	市内在住在勤者 5名登録	451
	協働Program 御前崎 環境出前講座	6～7月 全5回	御前崎市内 小学校 5校	2人	対象小学校・学 年児童 約300名	200
	協働Program 海洋体験活動指導	6～7月 全5回	御前崎市内 小学校 5校	2人	対象小学校・学 年児童 約300名	294
	協働Program 講師等の活動	通年	関係各所	1人	一般参加者等	950
	おまえざき まちなかの水族館	2月21～23日	御前崎市内	5人	不特定多数	402
	EC LABO.	毎月1回	御前崎市内	2人	法人登録指導者	30
	ホームページやSNSの 管理運営	随時	法人事務所	2人	不特定多数	30

- * 1 「事業の実施に関する事項」は、事業ごとにそれぞれの項目を記載する。
- 2 「受益対象者の範囲及び人数」は、具体的に記載する。
- 3 2(2)は、定款に「その他の事業」の記載がない場合には不要。
- 4 定款に掲載している事業で報告書に掲載していないものは、その理由を記載する。